

《健やかな子どもの育ちを地域とともに》

東広島市に住んでいる私にとって、朝晩、霜が降りはじめ、朝露に濡れ円網状に輝く蜘蛛の巣を目にすると、秋の深まりを感じます。同時に、早朝の山間に響き渡る雄鹿が雌鹿を呼んでいるのか、雌鹿が小鹿を呼んでいるのか、「キューンキューン」の泣き声、これもまた、秋深さを感じる一つです。

この時期を二十四節気のうちでは、「霜降(そうこう)」といい、おおよそ10/23~11/6頃、朝夕冷え込んで、霜が降り始め、紅葉が最盛期を迎え、どんぐり拾いや紅葉狩りなどが盛んになる時期を指すそうです。この二十四節気について知りえたのには経緯があり、先日、比治山・段原地域のコミュニティづくりで活躍されている地域の方より、「こどもと二十四節気かるた」というものを頂きました。このかるたには、春分、夏至、秋分、冬至をはじめとして、農耕民族として長い歴史を刻んできた先人たちが季節の移り変わりを知り、農作業の時期を知る手立てとして使ってきた「二十四節気」が書かれており、自然の変化やその季節の旬を感じるきっかけにもなるものです。玄関の受付の前に、かるたの絵札と読み札を合わせて木板にのせて置いてあります。これから、二十四節気ごとのそれぞれの時期に合わせて、このかるたを入れ替えていきたいと思いますので、絵札と読み札の文から、想像したり、思い出したりしながら、子どもたちと季節が感じられるものを探したり、感じたり、語り合ったりしていただければ幸いです。

また、この時期になると、様々な場所でお神輿をみかけたり、御幣・紙垂(ごへい・かみだれ:白い紙がひもなどから垂れ下がったもの)がかかけられたりするのをみかけます。神事に関しては、当園は仏教園ではありますが、地域とのふれあいや、子どもたちに様々な体験をしてもらいたいということから、毎年、邇保姫神社より獅子舞にきてもらっています。そして、今年も10月のはじめ、邇保姫神社の禰宜(ねぎ)さんと一緒に獅子舞がやってきてくれました。しろぐみ(年長児)ときいぐみ(年中児)の子どもたちは、獅子舞の登場に緊張した面持ちで、怖がっている様子でしたが、祈禱を終え、獅子舞が回ってくる前に「頭を噛んでもらうと頭が良くなったり、病気になったりしなくなる」ということを聞くと、次々に自分から頭を差し出して獅子舞に噛んでもらい、「これで、えらくなったかね」「風邪ひかんくなるかね」と笑顔が見られました。

地域との関わりでいえば、9月末に地域の敬老会(蓮の実会)の方々にお越しいただき、子どもたちとともに交通安全教室と昔あそびの交流をしていただきました。参加された皆さんからは、「子どもたちは地域の宝、これからもしっかりと見守っていきたい」とお言葉をいただき、地域の温かさを感じました。また、11月25日(土)には地域合同防災訓練を予定しています。これは、平成24年に東雲本町一・二丁目町内会と当法人(社会福祉法人 微妙福祉会)が地域防災協定を結んでから、それ以降、2年に一度、東雲本町一・二丁目町内会と当法人が合同で防災訓練を行ってきたものです。コロナ禍の影響もあり、5年ぶりの実施となりますが、みみょう保育園、第二みみょうこども園の乳幼児をはじめとして地域の皆さんとともに避難訓練を行うものです。当日は、大地震の後に津波が発生した訓練を予定しており、園児をはじめとして地域の方々も当園の5階ホールまで避難したり、園の防災備品を確認したり、防災研修をしたり、非常食の炊き出しを行ったりする予定です。

この3年間のコロナ禍により、語り合ったり、交流したりする場が減少し、地域のコミュニティは希薄なものとならざるを得ませんでした。しかし、地域には子どもたちの育ちを支え、子育てを応援するたくさんの温かいまなざしや、声があります。地域とともに、子どものことなら、子育てのことなら“みみょう”に聞けば安心と思われるよう努めていきたいと思えます。